響 ひびき

すべては
子供たちの
笑顔のために

Vol. 5

令和７年
(2025年) 2/14

〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
Tel.0267-31-0251
Fax.0267-31-0140

バックナンバーはこちらから

東信教育事務所

余すことなく

“研修の窓”
・研究主任の「やってみたい」にいいね！
～東信地区第３回研究主任研修会～
・子供たちと先生方の“思い”を「余すことなく」形に
～第３，４回授業づくり学級づくり研修会～

“考える部屋”
・突然の転入、学校は何ができる？
～外国人児童生徒等の受け入れについて考える～

“生涯学習課より”
・東信地区コミュニティスクール研修会

研修の窓

研究主任の「やってみたい」にいいね！
―東信地区第３回研究主任研修会―

研修会を通して、たくさんの「やってみたい」が生まれました。研究主任の先生方の「やってみたい」について、いいなと思ったら「いいね！」をして、学校づくりについて一緒に考えてみてください。

研修Ⅰ「他校の実践に学ぶ」

４校の先生方に、今年度の取組について発表していただきました。

「アウトプットとフィードバックを大切にした授業改善の取組～生活、総合的な学習の時間を中心に～」　佐久市立中佐都小学校

「資質・能力の育成に向けた校内研修のあり方」　御代田町立御代田中学校

「指導主事派遣を活用した校内研究の推進」　上田市立東小学校

「自立して学ぶ生徒の育成を目指して～自由進度学習の実践から～」　東御市立東部中学校

研究主任の先生方の「やってみたい」その１

身に付けたい力を学習指導要領の解説の言葉ではなく、生徒にとって分かりやすい言葉で表現し、まとめたい。 いいね！

先生方が、実践してきたことを自由に語り合う「**アウトプットタイム**」をやってみたい。 いいね！

「個別最適な学び」の実現に向けて、授業の中で子供に委ねる時間をもっと増やしたい。 いいね！

研修Ⅱ「テーマ別情報交換会」

研修Ⅱでは、10のテーマごとにわかれて情報交換を行いました。他校の具体的な取組から学んだり、悩みを共有したりして、今後の取組の手がかりをつかむことにつながりました。

研修Ⅲ「トークセッション」　―教育への夢、研究主任への願い―

久保　貴史 校長先生（軽井沢町立軽井沢西部小学校）、粟津原　弘文 校長先生（小諸市立小諸東中学校）、御手洗　博一 校長先生（青木村立青木小学校）に、ご自身の経験も踏まえながら、学校教育への熱い思いを語っていただきました。「みんなで学校をつくるという意識を持つこと」、「『正解』ではなく『最適解』を求めること」、「他校に出向いたり、研修に参加したりするなど、みんなで学び続けること」といった、大切にしたいキーワードをたくさんいただきました。

研究主任の先生方の「やってみたい」その２

一人一公開の後の研究会では、「**子供のきらりとした姿を共有することを楽しむ**」という視点も追加してみたい。 いいね！

職員みんなで「学校づくり」をしていくという考え方が大切だと思った。これからは、「**研究」ではなく「学校づくり**」という言葉を使っていきたい。 いいね！

明日早速、**校長先生と学校づくりについて話してみたい**。 いいね！

本校だけでは難しいことは、**統合予定の学校と一緒**に進めてみたい。 いいね！

まずは自分がやってみる。いいなと思ったことは、失敗を恐れず、まずは自分がチャレンジしたい。 いいね！

先生方は、いくつ「いいね！」しましたか。研究主任の先生方は、よりよい学校づくりを目指して、悩みながらも前に進もうとしています。今回の研修会を通して生まれた「やってみたい」が実現されるよう、先生方も「学校づくり」に夢や希望をもって取り組んでいただけることを願っています。立場や経験年数等に捉われることなく、「いいな」と思ったことは、ぜひチャレンジしてみてください。

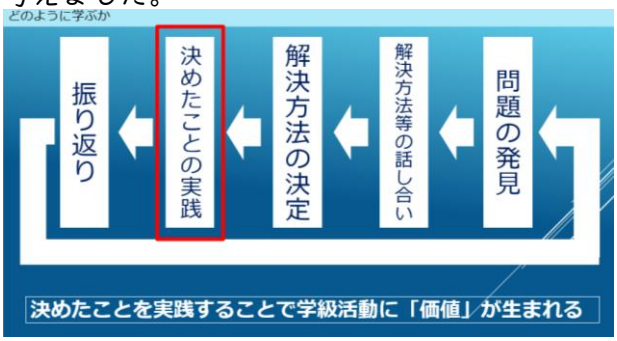
研修の窓

子供たちと先生方の“思い”を「余すことなく」形に
～第３、４回授業づくり学級づくり研修会～

日々の授業や学級づくりの中で湧き出た願いや悩みを語り合い、よりよい実践につなげるために学び合った「授業づくり学級づくり研修会」について紹介します。

第３回 (11/19) 基礎研修
【今こそ学級活動の充実を！】

２学期までの学級活動を振り返りながら「子供自らが課題を見いだし、協力して目標を達成する学級活動」はどうあったらよいか考えました。



参加者
- 話し合い活動は時間がかかってしまうため、避けてしまっている。
- 教師が司会をし、結論を誘導する話し合いになりがちだ。

〇自分達の力で安心して話し合いを進めたり、まとめたりできるようにしていきたい。

教科等分科会
【悩みや願いを語り、共に考える】

「授業で何を大切にすればいいか知りたい」「子供達の思いや考えをどのように紡いだらよいかわからない」等の、日々の実践の中で生まれた願いや悩み等を共有し、指導主事と共に明日に向けてのヒントをつかみました。

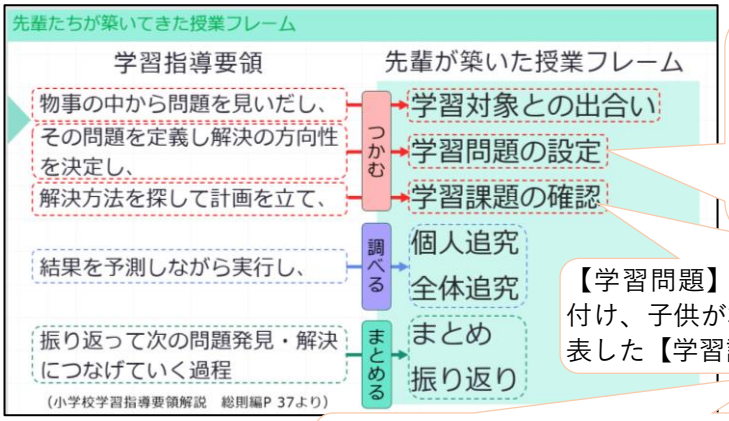
参加者
- 授業の終末に感想ばかりを求めていた。「振り返り」の意味について考えていなかった。

〇他校の先生方と授業構想をする中で、子供が「やってみたい！」と思えるような課題を設定したいと感じた。

〇授業構想の仕方がわかり、単元の流れについてイメージがわいてきた。明日からの授業に生かしていきたい。

第４回(１/20) 基礎研修
【そもそも「学習問題」って何だろう？
～授業づくりの基本の「キ」～】

日々の授業構想をより円滑に進める上で役立つ「授業フレーム【学習過程】」について考えました。



学習対象との出合いから気付いた「不思議だな」「知りたいな」「どうしたらできるのかな」などの一人一人の問いを整理し、本時に学級全体で解決することを共有し合った問い【学習問題】が設定できていますか？

【学習問題】の解決の見通しをもち、解決の方向を角度付け、子供が本時追究（追求）する学習内容として言葉で表した【学習課題】を位置付けていますか？

【学習課題】には、その教科ならではの「見方・考え方」が反映され、子供がその後の追究で困った時に拠り所とする言葉で表されているか、考えていきたいですね。

全４回の授業づくり学級づくり研修会を通して、授業や学校生活の中で子供と先生方の思いを具現化する方法について考えました。

研修会で構想したことをもとに授業を行い、学校訪問等で指導主事と一緒に振り返りながら、さらに歩みを進めてくださった学校もあります。

この研修会は、授業や学級づくりで悩む全ての先生方を対象としています。来年度も多くの先生方のご参加をお待ちしています。

考える
部屋

突然の転入、学校は何ができる？
～外国人児童生徒等の受け入れについて考える～

家族の都合等様々な理由で、日本語の支援が必要な子供たちが“ある日突然”転入してくることがあります。その時に学校ができることは何か、転入前の情報収集や転入後の支援のあり方について、一緒に考えてみましょう。

令和５年度　日本語指導が必要な外国人児童生徒数（公立 小・中・高・特別支援学校）　令和５年５月１日現在

平成26年度	平成28年度	平成30年度	令和3年度	令和5年度
478人	517人	498人	566人	528人

日本語指導が必要な外国人児童生徒数は、H26年度の478人から、528人と増加傾向にあると考えられます。

令和６年度教育要覧（長野県教育委員会）より

★急に転入の知らせが入った。受け入れる際に、どのような準備が必要？

①どこからどんな理由で来たのか知っておく。
②転入する前の教育歴、学校での様子を知る。
③児童生徒の家庭状況を把握する。
④子供の日本語能力を早めに知っておく。
⑤保護者の最初の来校時には通訳を確保する。
⑥学校での支援体制を考える。
⑦困ったときに相談できる関係者の連絡先を知っておく。
⑧子供の母国の文化を知っておく。

参考：松本市子ども日本語教育センター便り　令和６年８月号

①～⑧すべてを短時間で準備することは難しいかもしれませんが、校内外の支援体制をできることから整えることが大切です。

「⑥学校での支援体制を考える」について、学級担任としてはどのような支援ができるでしょうか？A小学校、B先生はCさん（ネパール国籍）に次のような支援をしました。

学習面・
家庭生活面

配付するプリントやテストには必ず**ルビ**を振ります。タブレットの**翻訳機能**を使えば、母語への変換は容易なので、保護者とのコミュニケーションに役立ちます。

異文化理解
本人の特技・強み

クラスでネパールの**文化を知る機会を作る予定**です。Cさんのお母さんを招いて一緒にネパールの料理「モモ」を作って食べようと思います。

Cさん（ネパール国籍）

人間関係で困った時は、その**原因について粘り強く究明**しました。どうやら自分の気持ちをうまく伝えられなかったようです。苛立った時は先生に気持ちを伝えることを本人と確認し合いました。

社会生活面

学習面

DLAのアセスメントを行い、取り出し指導の内容が適切かどうか見直していきたいです。

※「DLA」とは「Dialogic Language Assessment（対話型アセスメント）」の略で、外国人児童生徒たちの日本語能力を対話で測る支援付き評価ツールです

さらに受け入れについて知りたい場合は「外国人児童生徒受入れの手引き」をご覧ください。

文部科学省 総合教育政策局 国際教育課

B先生は学級担任として、Cさんを中心とした環境に多面的なアプローチをしています。またCさんがクラスに来たことで、他の子供たちの成長はもちろん、B先生自身も教師としての成長を実感しているようです。児童生徒について適切な指導を行うには、その児童生徒の姿を丁寧に見取ることが大切です。これは、外国人児童生徒だけの話ではなく、全ての子供に対して言えそうです。B先生の取組をヒントに、学級の子供たちへの支援について考えていきましょう。

生涯学習課
社会教育

東信地区コミュニティスクール(CS)研修会
１２月４日（月）開催

「ファシリテーション力をUPしてコミュニティスクールを豊かに！」と題して、あそび心BASE アフタフ・バーバン信州理事長の清水洋幸さんの講演をお聞きし、コーディネーターのファシリテーション能力の重要性を学びました。また、情報交換会では他地域の事例から、これからの活動のヒントを見つけることができました。

清水さんのお話より

○CSを豊かに展開していくために大切な“ひらく”という姿勢

CSは、地域と学校が協力し、子供を中心に成長を支える仕組みです。成功させるには、地域や学校の大人たちが自らを「ひらき」、信頼関係を築くことが大切です。不安を安心感と信頼へとつなげるためには、コーディネーターの役割が重要です。

○一人ひとりが“ひらかれる”ための条件

安心感	温かな場	自分を発揮できる余白	ファシリテーターの姿
失敗しても、違っても大丈夫。「ここにいていい」と思える雰囲気があること。	お互いを肯定し合い、心地よく過ごせる場であること。	自分の個性や考えを自然に表現できる場や機会があること。	場をリードする人自身が自分のプラス面もマイナス面も素直にひらいていること。

このような条件が整うことで、互いにひらかれ、つながりが深まり、信頼関係を築くことができます。そして、地域と学校が協力して豊かなCSを展開していくための、不可欠な基盤となります。

アイスブレイク

バースデーリング～キャッチ

ドキドキ自己紹介

人間粘土

運営委員会の冒頭にアイスブレイクを取り入れることで、参加者の心をひらき、場の緊張を和らげることができます。また、活動を通じて、人と人の壁が取り払われ、意見交換をしやすい雰囲気が生まれます。自由で創造的な思考をひらくきっかけにもなり、会議への積極的な参加を促すだけでなく、短時間で信頼関係を築くことで委員会の連携を強化し、その後の協力体制にも好影響を与えます。

・良いコミュニティスクールにはコーディネーターが必要不可欠で、そのコーディネーターにはファシリテーション能力が求められると感じた。
・様々なアクティビティを通して、多くの方と楽しく交流することができた。東信地区のCSの実践を紹介いただき、大変参考になった。

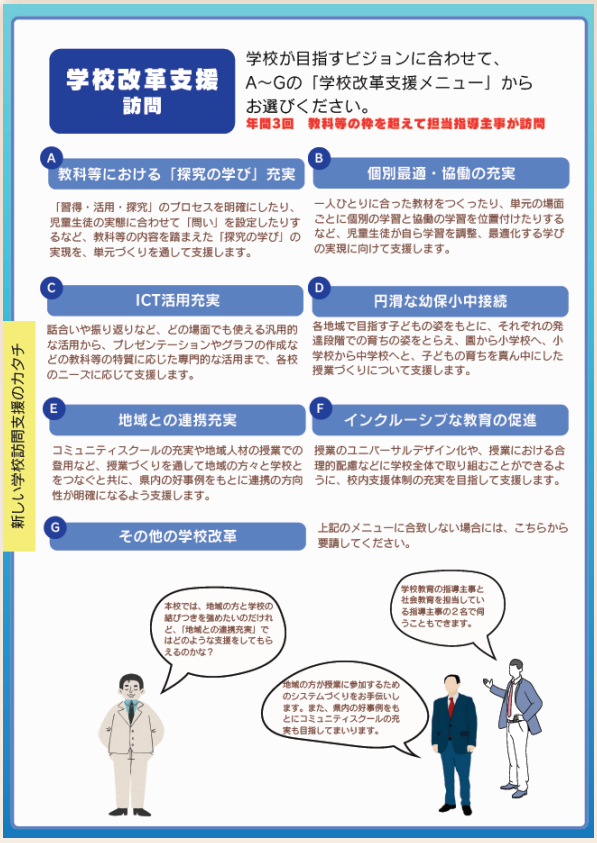
アイスブレイクやアクティビティを通じて、安心感のある場づくりの大切さを実感し、地域と学校が協力するためのヒントを得る機会となりました。また、他地域の事例共有や意見交換からは、今後の活動に向けた新たな気づきや具体的なアイデアを得ることができ、東信地区におけるコミュニティスクールのさらなる発展につながる研修会となりました。

R７学校訪問支援が変わります！

「学びの改革」は、先生方の挑戦から

令和７年度より、学校訪問支援が大きく変更となります。これまでは、指導主事・専門主事が、研究グループや個人の先生を対象に教科等の授業改善を目指した授業づくり、各校のニーズに応じた学校づくりを、伴走支援して参りました。今後更に、各学校が抱えている教育課題を解決していくためには、個人や研究グループ、教科等の枠を越え、学校全体で改革に取り組む学校に、指導主事・専門主事がより深くかかわることが必要だと考えています。

そこで、これまでの訪問支援体制を大きく変更し、長野県教育委員会が目指す「学びの改革」に挑戦する学校の、具体的な改革ビジョンや授業改善プランに応じて継続して支援をしてまいります。



令和７年度の学校訪問支援は、単元訪問とゾーン訪問を統合・発展させ、「学校改革支援訪問」、「初任者等支援訪問」、「オンライン相談支援」、「指定研究訪問」の４つの訪問形態としました。

「学校改革支援訪問」は、各校で取り組む学びの改革に基づき、学校改革メニューから訪問支援の内容を選んでいただくものです。年間３回、指導主事が教科の枠を超えて支援します。単元訪問とゾーン訪問を包括した、授業づくりを通した学校改革の支援です。従来の単元訪問のような「一つの教科における授業づくり」だけでなく、それを含めた教育課程全体に対する支援形態となります。訪問する指導主事が必ずしもご希望の教科担当とは限らない旨、ご理解ください。

「初任者等支援訪問」は記載した先生方を対象とした個別の支援訪問です。従来の要請手順に加え、４月からの要請が可能です。

「オンライン相談支援」は、いつでも、気軽に、何度でもご利用いただけます。手続きを簡素化し、先生方の声に迅速にお応えできるようにしました。こちらも４月からの要請が可能です。

「指定研究訪問」は、対外的な公開授業等にお応えする訪問です。従来の単元訪問同様、教科等に応じて支援いたします。年間３回までの訪問とします。

東信教育事務所では、学校訪問に関わるリーフレットを作成しています。手続きの詳細については、来年度早々にお伝えする予定です。

来年度の学校運営に大きく関わるところです。ご不明な点については下記のヘルプデスクへお問い合わせいただきますよう、お願いいたします。

学校訪問支援ヘルプデスク：０２６７（３１）０２５１

（東信教育事務所　学校教育課　担当：甘利）